

素敵な駅をつくる産学協同「八幡前駅プロジェクト」

商品開発した“こいくるパン”が新聞で紹介されました！

「恋のパン」駅盛り上げて

叡電八幡前駅で活動 同志社中有志ら考案



工業部のメンバーが「MMH」のロゴを押すのを見守るプロジェクトの生徒たち（京都市左京区・同志社中）

廃レールで焼き印きょう100個販売

4月以降、店主らとパン生地の種類や中身についてさらに検討を進めた結果、板チョコ

味のチョコを入れて、「イチゴ味」（太田敦子）

を「恋のパワースポット」としてPRしていることから、

「食べる門には恋来たる」から「こいくるパン」と命名。おみくじのように楽しんでもらおうと、一部のパンにはイチゴ味のチョコを入れて、「イチ

生徒らは、今年1月ごろからアイデアを考え始め、2月に全校生徒と教職員約千人を

「食べる門には恋来たる」から「こいくるパン」と命名。おみくじのように楽しんでもらおうと、一部のパンにはイチゴ味のチョコを入れて、「イチ

同社中（京都市左京区）の生徒有志が、学校近くのパン店と協力してオリジナルのパンを開発した。叡山電鉄の廃レールを使った焼き印も押し、27日の同中オープンデーで100個を販売する。

「味があたると恋がかたうかもこのメッセージを込めた。さらに独自性を出そうと工業部の生徒の協力を得て廃レールで焼き印を製作、パンの表面に「みんなで盛り上げよう八幡前を意味するロゴ「MMH」を押しした。」

今年1月ごろからアイデアを考え始め、2月に全校生徒と教職員約千人を

「食べる門には恋来たる」から「こいくるパン」と命名。おみくじのように楽しんでもらおうと、一部のパンにはイチゴ味のチョコを入れて、「イチ

今年1月ごろからアイデアを考え始め、2月に全校生徒と教職員約千人を

「食べる門には恋来たる」から「こいくるパン」と命名。おみくじのように楽しんでもらおうと、一部のパンにはイチゴ味のチョコを入れて、「イチ

京都新聞 2017年5月27日付 朝刊に掲載

「八幡前駅プロジェクト」は、2013年に始まった同志社中学校の有志生徒と叡山電車による産学協同の「素敵な駅」をつくる取り組みです。地下鉄開通後、同志社への通学利用者は激減し、また周辺地域の少子高齢化が進み、かつての活気を失っている八幡前駅。「町の人にとっても、同志社にとっても大切な八幡前駅を、もう一度素敵な駅にしたい。」その思いで、これまでに「壁新聞の発行」「クリスマスデコレーション」「駅の全面改装」「マスコットキャラクター ハト駅長の開発」「旧チャペルイスの寄贈」「地域住民(こひつじ保育園児 他)を招いてのサンタイベント」など、数多くの取り組みを行ってきました。

そして今回さらに実現させたのは、オリジナルパンの商品開発！その名も、「ハト駅長の、こいくるパン」。八幡前駅のマスコット「ハト駅長」が考案したという設定で、「八幡前駅を恋のパワースポットにする」という今期のコンセプトにのっとり、なんと同志社生約1,000人を対象にアンケートリサーチして企画した味を実現。そして、さらに本物の鉄道レールを使用した焼き印を製作し、パンに焼き印！地域密着型のトリプル産学協同のスタイルも斬新なパン開発ができました。（叡山電車×同志社中学校×ベーカリーショップ・プレーメン）このパンを買ってもらうことで、同志社の生徒のみならず、地域・沿線のみなさんに八幡前駅を知ってもらうのが狙いです。

PBL(Problem Based Learning)やアントレプレナーシップ教育も注目される今、京都の街に根差した本プロジェクトは、中学生自らが主体的に活動するスタイルを重視した運営を基本に、実社会や企業とコラボレーションする産学協同を実践しながら、未来のイノベーターを育てる学びを創り出しています。